

日本医学会分科会活動報告

学会名(No.5)日本薬理学会

代表者名 理事長 橋本 均

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

- ① オープンアクセスの英文学術誌「Journal of Pharmacological Sciences (JPS)」の最近のインパクトファクターは3以上と高水準で推移しており、高い水準の学術情報を発信している。また、学術機関誌でもある和文誌「日本薬理学雑誌」は日本国内の創薬科学の総説誌として長年にわたり高い評価を得ている。総説はJ-STAGEによるオープンアクセスで公開しており、2024年からは雑誌全体を電子ジャーナルにしたため雑誌の永続的なアーカイブが可能になった。
- ② 学術集会は、年1回の年会と計6回の部会（北・関東・近畿・西南の地方部会）を開催し、併せて、市民公開講座、次世代薬理学セミナー、看護薬理学カンファレンス、新薬理学セミナー（Digital Pharmacology Conference）等を開催しており、薬理学研究者（学生を含む）が研究成果を発表し交流する場と、他学会員や一般市民が参加する機会を提供している。日本薬理学会は薬理学を基礎から臨床応用までを一体としてカバーする学問領域として捉え、医学部、薬学部、歯学部、獣医学部、看護学部、保健学、生命科学、工学、企業研究者が活発な学会活動を行っている。創薬に携わる企業の研究者とアカデミアの研究者のインターフェースの役割を果たし、「オープンイノベーション活動」を目指している。薬理学における高度な教育技術を持った会員であることを日本薬理学会が保証する「薬理学エデュケーター認定制度」を2019年に設立しており、薬の適正使用と啓発において優れた教育能力を備えた人材を社会に送り出している。

b. 当該領域における国際的な役割

世界各国の薬理学会、Immunopharmacology や Education などの Section committee member として IUPHAR (International Union of Basic and Clinical Pharmacology) との国際的活動・連携を進展させている。World Congress of Basic & Clinical Pharmacology (WCP) や Asia Pacific Federation of Pharmacologists (APFP) に積極的に関与し、日韓薬理学合同セミナーおよび日中薬理学・臨床薬理学ジョイントミーティング等を共同開催し、American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics (ASPET) および The Australasian Society of Clinical and Experimental Pharmacologists and Toxicologists (ASCEPT) との講師交換プログラムを実施して国際的連携を進めている。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

日本薬理学会は、薬理学を基礎から臨床応用までを一体としてカバーする学問領域として捉えこれまで100年近くに渡り果たしてきた役割を確認し、21世紀における薬理学のアイデンティティを確立するために会員による学会活動を積極的に続けている。特に創薬に携わる企業の研究者とアカデミアの研究者のインターフェースの役割を果たして「オープンイノベーション活動」を進展させている。

d.学会運営上留意している点

大学所属の理事以外に、企業所属研究者、研究所所属研究者、女性研究者、地域性などダイバシティに留意して理事や委員を選出し、活発で学際的な学会活動を目指している。看護関係学会と連携して、看護薬理学カンファレンスを定期的を開催するなど、多くの学会との連携に力を入れている。

II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

2022年11月第96回日本薬理学会と第43回日本臨床薬理学会の同時期開催、2023年12月に第97回日本薬理学会と第44回日本臨床薬理学会の同時期開催を行った。薬理学は学際的な領域であるが、合同開催は会員の学問的な視野を広げる機会となった。さらに、2025年3月に、第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会合同大会を開催し、多数の日本医学会分科会の後援・協賛を得て、基礎医学・生命科学・臨床医学を含めた学際的な分野間の一層の交流と情報交換を行うことを予定している。

また、2024年度日本医学会連合領域横断的連携活動事業（TEAM事業）「ワンヘルスの実現に向けた生命科学研究の推進」（参加学会：日本解剖学会、日本生理学会、日本薬理学会、日本細菌学会、日本衛生学会、日本公衆衛生学会、日本感染症学会、日本内分泌学会、日本生体医工学会、日本毒性学会、日本数理生物学会）に採択されている。この事業では、ヒトや動植物を含めた地球全体の健全を一体化して捉える「ワンヘルス」の学理の推進を目指している。TEAM事業「加齢性難聴の啓発に基づく健康寿命延伸事業」（代表：日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会）および「薬剤の適正使用と「健康」に対する理解 促進のための 啓発活動」（代表：日本糖尿病学会）にも参画している。